

CV-22 オスプレイは事故率が高い

危険性を判断するのに、10万飛行時間当たりの事故率を使います。事故率のクラスAは、死者が出たり、損害額が200万ドル以上の事故を表しています。

CV-22は、2014年米会計年度まで41,622時間飛行しており、クラスAの事故率は7.21です（現在、沖縄に配備されているMV-22オスプレイは同事故率2.12です。）。

事故率が高い理由は、CV-22が特殊作戦に使用されるためで、それに見合った訓練＝低空飛行訓練や夜間飛行訓練など＝を行うからです。横田基地は市街地のまん中にあり、CV-22が基地周辺で訓練を行えば、周辺住民の命と安全は今以上に危険にさらされることになります。事故が起きてからでは遅いのです。CV-22の配備をSTOPさせましょう。



CV-22 オスプレイの横田基地配備**反対！** MV-22 オスプレイは普天間基地から**撤去！**

○署名運動や反対行動にご協力ください。

◆オスプレイ横田配備反対連絡会（連絡先：第2次新横田基地公害訴訟原告団 TEL&FAX 042-552-4451）

首都東京に広大な米空軍・横田基地があります。戦後70年、ベトナム戦争やイラク戦争など、海外の戦争に直接関わってきました。そして今、CV-22 オスプレイが配備され、特殊作戦部隊の出撃基地になろうとしています。



航空自衛隊・横田基地の新設

横田基地は目に見えて変貌をとげている

戦後米軍に接収された後、横田基地は米空軍専用の基地でした。広さは、5市1町にまたがり、東西約3km、南北約4.5km、面積約7km²、滑走路の長さ3350mです。

2012年3月、航空自衛隊が府中から移転し、自衛隊の基地としても運用されています。

航空自衛隊航空総隊司令部と在日米軍・第5空軍司令部は地下でつながっており、そこには日米共同統合運用調整所が設置され、日米で協力して戦争をする体制がより強化されました。また、弾道ミサイル防衛（BMD）の司令部ともなっています。



パラシュート人員降下訓練の実施

2012年1月10日のアラスカ米陸軍100名のパラシュートによる人員降下訓練を幕開けに、2014年12月末までに沖縄の海兵隊や陸軍の特殊部隊など、のべ1500名を超える人員降下が、基地内を目標として行われました。また、同時に物資投下訓練も行われています。そして、2015年になっても同様の人員降下訓練は続いています。

沖縄では、これらの降下訓練（人員・物資とも）による痛ましい事故が度々起きました。



MV-22 オスプレイの横田基地飛来

CV-22 オスプレイの横田基地配備

3機同時の横田基地離陸 2015/6/6



2014年7月19日、北海道丘珠駐屯地での展示の途中に初飛来しました。その後も8月、9月、10月と飛来、2015年も5月、6月と飛来しました。

飛来の際は、市街地上空でヘリモードや転換モードになったり、2機同時の離陸をしたりするなど、日米合意を無視した危険な飛行をしています。

MV-22は、横田基地を中継地として、北海道や百里基地（茨城県）、横須賀、富士演習場等を訪れています。

飛来回数大きく分けて6回ですが、これまで、28回の離着陸と基地周辺での数回の夜間飛行訓練を行っています。

昭島市上空を転換モード～ヘリモードで着陸態勢に入るオスプレイ 2014/8/29



瑞穂町上空をヘリモードで着陸態勢に入るオスプレイ 2014/9/5



2013年7月29日、米太平洋空軍のカーライル司令官（当時）が、CV-22の配備先候補として嘉手納基地と横田基地をあげ、日米協議をしていると発言しました。

その後、この件について周辺自治体が説明を求め、配備反対を表明しましたが、日本政府は「知らぬ・存ぜぬ」を通してきました。ところが、2015年5月11日に、「米国から、横田基地にCV-22を配備するとの通報を受けた」として、5月12日と15日に外務省と防衛省の担当者が周辺自治体を訪れ、配備の必要性和安全性について説明し理解を求めました。

しかし、説明は不十分で、各自治体を説得できるものではありませんでした。

その後、特殊作戦飛行隊約400名が横田基地に配備されることや、駐機場の補強工事をすることも発表されています。

オスプレイ配備は、基地周辺に騒音の激化と危険をもたらすことは必至です。

2010/4/9 アフガニスタンでの着陸失敗事故で4人死亡（米空軍事故報告書より）

